

発行元
東京新聞
南千住専売所
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたうん



第112号
平成21年
7月14日

日本羊毛工業の発祥の地 陸軍千住製絨所 石川勝子さんの想い出

「老松巨榎枝を交へて昼なほ狐狸の戯る状にあつた」(陸軍千住製絨

所初代所長 井上省三伝)

内務卿大久保利通が毛織物の自給自

足は国家の大計なるを惟い明治8年に下総牧場(千葉県成田市)を開設し、並行して南千住に陸軍の直営工場(軍服など毛織物、毛布などを一手も製造する)陸軍千住製絨所を南千住に明治10年着工しました。明治12年には九三三九坪(建物一七六九坪)が昭和2年には土地三万二千四百六坪(建物一万七千二百二十二坪)に増築されました。石川勝子さん(旧姓佐竹)(大正11年(1922)生まれ)は、昭和12年(1935)から結婚するまで7年間、陸軍千住製絨所に働いており、お父さん・お兄さん・兄さんの奥さんもここで働いておりました。石川さんの想い出を語っていただきました。

「1本筋から3本筋に」

お父さんの佐竹清七さんは、洗場(羊毛)工場長を経て官吏である判任官に

なりました。

※旧陸海軍は下士官が判任官に相当

「整紡にいました」

石川さんの仕事は羊毛の糸が切れなたら、糸を繋ぎ合わせる整紡でした。軍服の生地を使う羊毛は上質なものを使ってましたから、切れることがなく、その後移動した毛布に使用する糸は、質が落ちるので糸が切れ易く、大変忙しかったそうです。

「休みは月二回。朝7時から7時まで仕事でした」仕事が終わるとすぐに会社のお風呂に直行しました。8時に会社を出て友人とよくあんみつを食べて帰った想い出があります。

紀元節『日本書紀』が伝える神武天皇の即位日として定めた祝日2月11日)や四方拝(元旦)などには会社に出向いて行きました。陸軍千住製絨所は診療所があり、軍医さんがいました。小林まつさん(明治44年生まれ)は昭和16年に盲腸の手術を軍医の舩松医師の執刀で行い、16日目に入浴して帰った記憶があるそうです。石川さんは戦争近くだったためか、盲腸の手術はせずに、薬と患部を冷やただけでした。福利厚生先進で、旅行もあり、園芸・文芸・囲碁・将棋・裁縫やダンスホールもあり、人事相談所や保育施設もありました。

第二次世界大戦が始まると千住製絨所

は長野県と福島の高多方と疎開し、石川さんのお父さんも高多方に疎開しました。

戦後、千住製絨所は南千住に戻りやまと毛織となりました。お父さんは退職され、弟さんが戦後にやまと毛織に就職されました。

今この130年の歴史ある赤レンガが半分は無残に壊されています。新しく移築先はまだ未定らしいのですが、時代の流れでしょうが、歴史ある赤レンガが無くなるのは寂しいですね。



石川さん提供 野戦重砲第七聯隊



◇すまいるたうん ふれあい広場◇
19日(日)午後14~18時
瑞光ひろば館101号(洋室)にぶらりとお
茶飲みにいっしょいませんか(無料)
色々なお話をお聞かせください。

